



現場から（最近のニュースから）

## 今の時代の答え



激動の時代だと言われていますが、どんな時代なのかを具体的に見て、そこでどのように生きるべきかを考えようという、電通コンセプターの吉田将英さんの著書『コンセプト・センス 正解のない時代の答えのつくりかた』（WAVE 出版）から抜粋した記事がありました。

今の時代は、5つの「すぎる」時代だそうです。簡単に紹介してあったことをまとめます。

### 1. 情報が多すぎる

あまりに情報が多く、勝手に流れ込むので、今のままで良いと思えなく、間違いない選択肢を見極めることも難しいので、結果として「ここではないどこかへ」を求めるだけになる。

### 2. テクノロジーが速すぎる

生成型 AI「ChatGPT」が出て来て、あっという間にクオリティや使い勝手も良くなっている。人々は、初公開であっても既視感があり、売り手側はそれを上回ろうとして商品を作るので、高速化が増している。そこで、「既視感＝どれも新しく見えず、知っているものに見える」と「達観＝選択肢は多いしうつろいも激しいので、どうしたらいいのかわからない。どれでもいいや」が広がっていく。

### 3. 向かい風が強すぎる

日本は年功序列と少子高齢化が合体しているので、「権限の大きい年長世代が多く」「権限の小さい若手世代が少ない」という構造になっている。「ここではないどこかに間違いなく行ったほうがいいと多くの人を感じているが、かつての約束がそれを阻み、そのジレンマがさらに“ここではないどこかへ”行きたいという願望を強めている」

### 4. 問いが複雑すぎる

情報が多くなり、テクノロジーが速くなった今、個人にとっても法人にとっても技術的問題は解かれて減っていったが、「適応課題」（知識の有無や技術的な可否ではなく、自分自身のものの見方を変えたり、周囲との関係性が変わらなければ（＝適応できなければ）解決できない問題）が増えている、なにが最適なのか分からず、簡単に解決できないことが多くなっている。

### 5. 「らしさ」が揺らぎすぎる

情報が多いので、比べる対象も増えて「果たして、今の自分の“自分らしさ”は、大丈夫なんだろうか？」となってしまう。一時、世界でいちばん幸福な国だったブータンが急激にランクから落ちたのは、国外の情報が流入するようになって、「あれ、僕らでもしかして貧しいのでは？」と揺らぎを覚えたからではないか。（1月10日 PRESIDENTOnline<だから世界一幸せだった国・ブータンの幸福度が急落した…「他人の芝生が見えすぎる」時代に自分を貫く方法>より）

「ここではないどこかを求め」「どうしたら良いか分からず」「何が良いか分からず」「自分らしさも分からない」これらがこの時代の特徴だということでしょう。時代をととても良く見ておられます。しかし、これは記事に出ている問題ゆえにそうなっているのではないのです。本当の問題ではないので、解決がありません。本当の問題は何か、そして、その解決はなにかをいっしょに考えてみませんか。



## 救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください